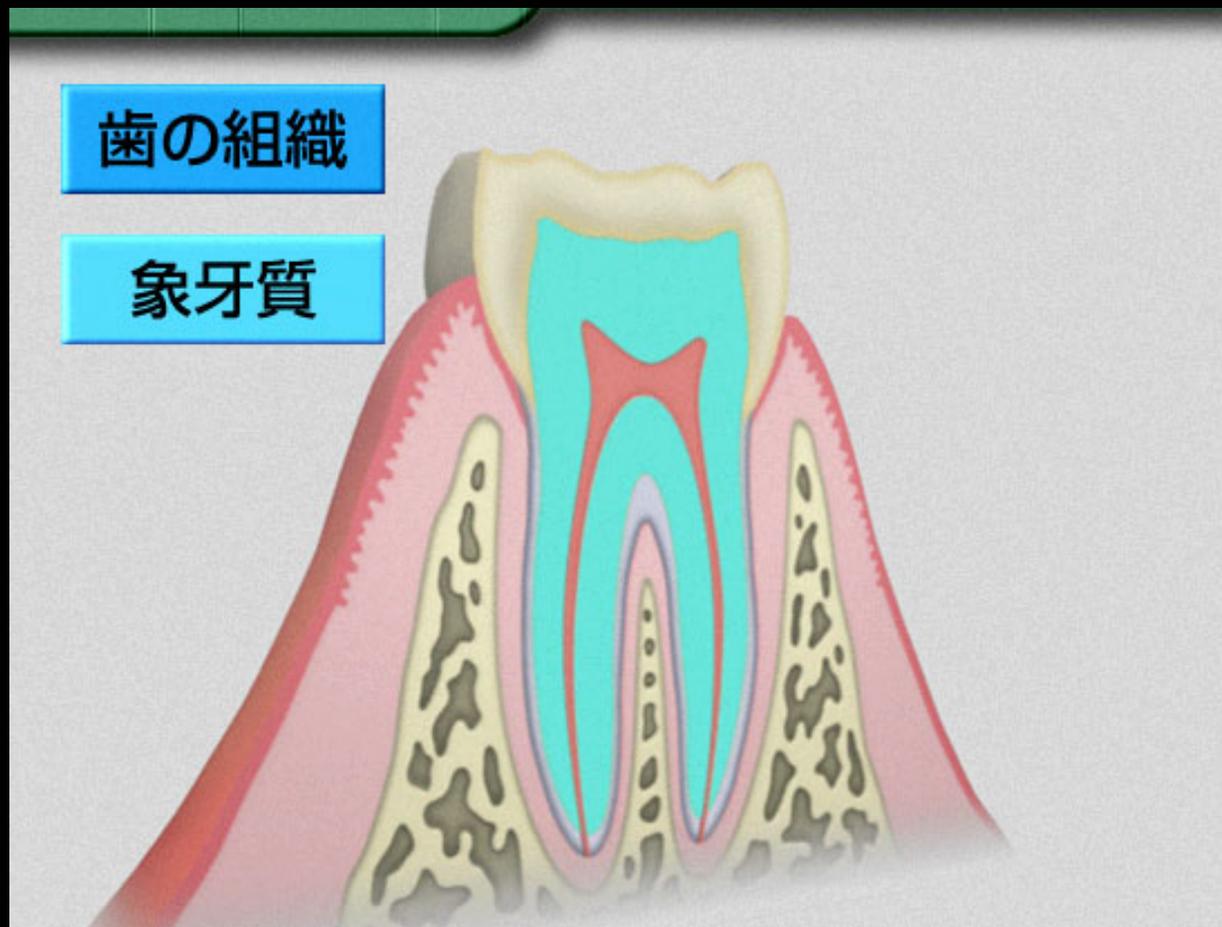


# う蝕の 病因



象牙質はエナメル質と歯周組織に守られている。う蝕は象牙質への細菌感染症

# 象牙質にう蝕が始まるプロセス

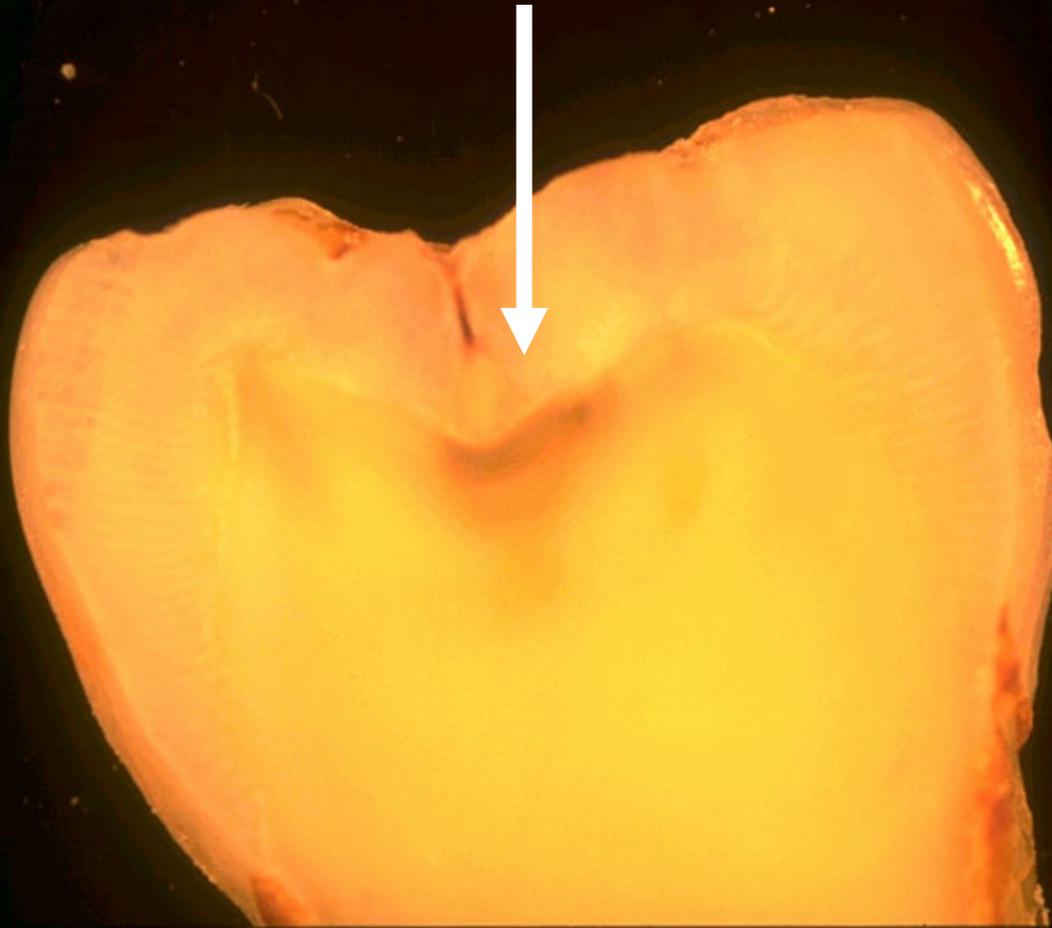
1. *M. streptococci* によるエナメル質

う蝕

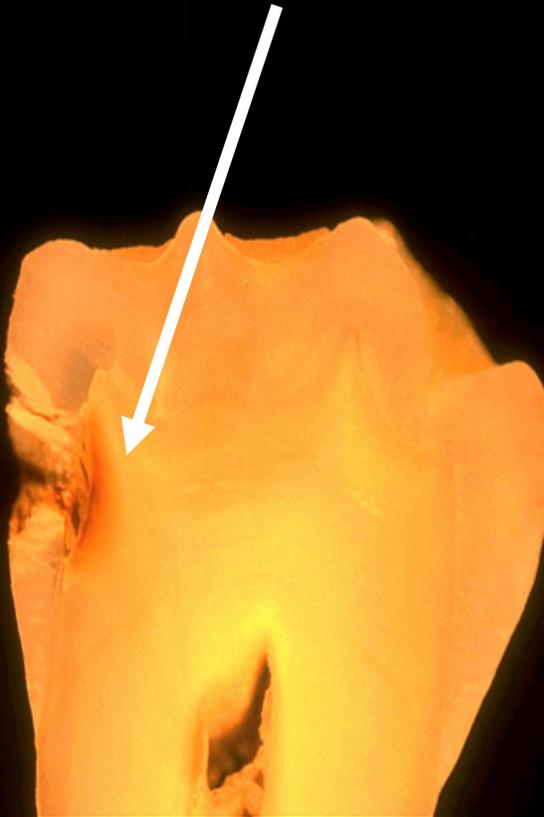
2. 歯肉退縮による露出

3. タービンによるエナメル質の除去

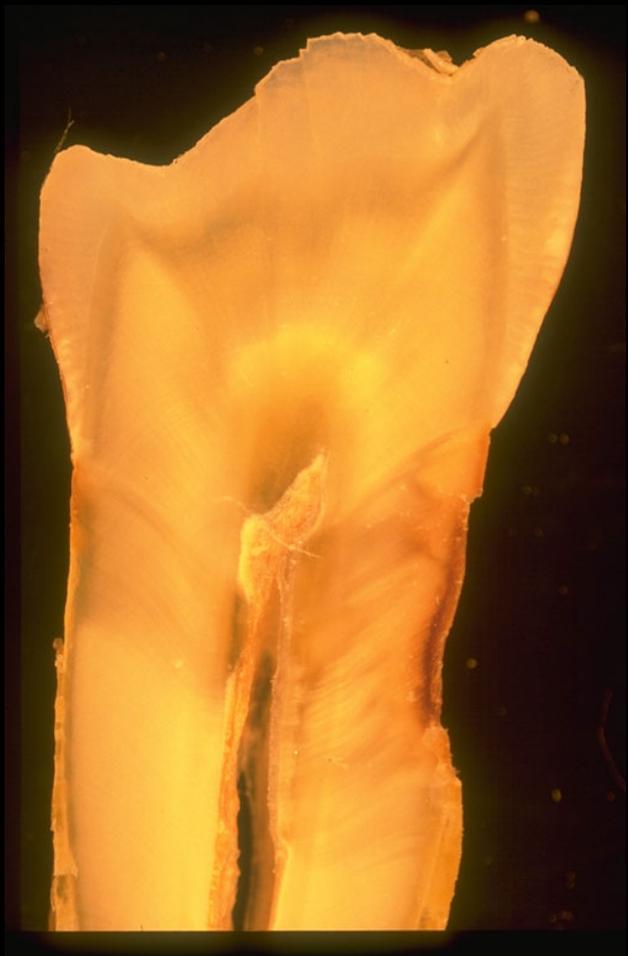
小窩裂溝う蝕： う蝕円錐が形成



エナメル質から初発するう蝕では  
象牙質にう蝕円錐が形成される



根面う蝕、二次う蝕 ともに上皮の保護がなく、う蝕円錐ができない。象牙質初発う蝕



# 根面う蝕 : 抜去歯 と 切片



# 修復物の平均寿命 (森田 他)

	二次う蝕	平均使用年数
アマルガム	7.4(%)	7.4
レジン充填	5.1	5.2
クラウン	8.2	7.1
インレー	5.8	5.4
バンド冠	5.2	11.3

92年調査 岡山、名古屋の5箇所の開業医

再治療の理由のうち二次う蝕の頻度

45歳男性:リスク低い

定期検診時「唾液が  
すっぱい味がる」

修復物周囲精査



口蓋側辺縁の二次う蝕  
セメントは溶解している



43歳男性：定期検診診査時に脱落  
セメントはどこにもない。



## 歯頸部充填の問題点

WSDは応力集中が主要因 エナメル質と象牙質の接着(20MP)よりレジンの方が低い。



クリアフィルで充填後5年症例:エナメル質のみで接着していた部位は二次う蝕の温床となった。